



文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書23



鳥取県東伯郡北条町

Hōjō

Kitao
北尾古墳群発掘調査報告書第1集

北尾23号墳

1997. 3

北条町教育委員会

鳥取県東伯郡北条町

北尾古墳群発掘調査報告書第1集

北尾23号墳

1997. 3

北条町教育委員会

序 文

ここ数年、文化財保護の意識が高まる中で、開発にともなう発掘調査により埋没していた歴史・文化が少しずつ明らかになってきていることは非常に喜ばしいことであります。しかしその反面、開発と文化財保護との調整がたいへん重要となっており、本町としても日々努力しているところであります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流部西岸に位置する総面積21㎏の小さな町ですが、北条町遺跡分布図によりますと丘陵部を中心に600件もの遺跡が存在し、その分布密度は県下一となっております。さらに、本町平野部一帯におきましても、条里遺溝が広がることから当時の繁栄の姿がうかがえ、これらの文化遺産を後世に伝え、地域の生活文化水準向上に資することが我々文化財保護行政の使命であると考えております。

ここに報告する北尾23号墳は、平成7年度の町内遺跡発掘調査において新発見された古墳であります。削平が進み、その様子をうかがい知ることが困難な状況となっております。そこで平成8年度、北条町北尾地内丘陵部一帯で行われる県営高地区一般農道整備事業（幹線1・2・3号、支線1・2・3号を含む）の工事に伴い、北尾23号墳の発掘調査を行ったところ箱式石棺3基、周溝の検出という成果を得るに至り、古墳の様子をはじめとして当時の古墳文化の一端を確認することができました。

調査にあたって、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより、地元作業員、その他調査関係者各位には多大なご尽力をいただきまして深く感謝申し上げます。

これを契機としまして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層努力を重ねてまいりますので、今後とも各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1997（平成9）年3月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会
教育長 吉田俊夫

例 言

1. 本報告書は、平成8年度に、鳥取県倉吉地方農林振興局の委託を受けて、北条町教育委員会が主体となって実施した北条町北尾字「八幡山」に位置する北尾23号墳の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 調査体制は以下の通りである。

調査団長	吉田俊夫	(北条町教育委員会教育長)
調査指導	山橋雅美	(鳥取県埋蔵文化財センター)
調査員	松本達之	
	宇田川宏	
	西村勝義	
	日置桑左工門	
	前田明範	(以上北条町文化財保護委員)
	清水直樹	(北条町教育委員会教育課社会教育係主事)
事務担当	樋口和夫	(北条町教育委員会教育課社会教育係係長兼社会教育係)
調査協力	中原由里香	
	岸田道明	
3. 本書の執筆、編集は清水、中原が行った。
4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水・中原が、遺物の実測、遺構図及び土器・遺構図の浄書は中原・岸田が行った。
5. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
6. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

本文目次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	位置と環境	1
第3章	調査の概要	4
第1節	北尾23号墳について	4
第2節	出土遺物一覧表	5
第4章	ま と め	12

挿図目次

挿図1	蜘蛛ヶ家山周辺農道整備事業の各路線計画図	
挿図2	北条町内遺跡分布図	2
挿図3	北尾23号墳全体平面図、断面図及び周溝平面図	6
挿図4	北尾23号墳第1～第3号箱式石棺墓実測図	7～8
挿図5	北尾23号墳第1～第3号箱式石棺墓掘り込み実測図	9～10
挿図6	北尾23号墳出土遺物	11

図版目次

図版1	調査区遠景、調査区完掘、周溝内、周溝部断面
図版2	第1号箱式石棺墓、第2号箱式石棺墓、第3号箱式石棺墓、坏蓋出土状況
図版3	北尾23号墳出土遺物

第1章 調査に至る経過

北条町北尾、鳥、米里地内西側丘陵部は、鳥取県の特産として全国的にも有名な二十世紀梨を中心とした果樹園が拓けているが細い道路しかないため、この地域全体の農道整備事業である県営鳥地区一般農道整備事業工事を行いたい旨の協議が鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課より北条町教育委員会へあったので、両者、本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて文化財保護の立場から開発工事との調整を図るべく協議を行い、平成7年5月から10月にかけて試掘調査を実施した。

その結果、北尾八幡神社に隣接する北条町北尾字八幡山において新発見の古墳が検出されたことから、この古墳を北尾23号墳と命名し、さらに詳細に記録保存するため発掘調査を行うことにした。

調査期間は、平成8年7月15日から平成9年3月25日までとした。

第2章 位置と環境

北条町 鳥取県の中央部に位置し、町東端を流れる天神川は羽合町との境界となっており、北は天神川が流れ込む日本海に面する。また、西は大栄町、南は倉吉市と接する。町域は東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km²となっており北部の海岸砂丘、中央部の沖積低地、南部の丘陵性山地の3地形から形成される。それぞれの地域では、土壌、地形条件に合わせた農業が、すなわち砂丘地でのらっきょう栽培、沖積低地での稲作、山地での梨、柿を主とした果樹栽培が営まれている。

北尾23号墳 北尾23号墳は、町の南西丘陵部、麴ヶ家山の中腹50～60mで、北尾八幡宮の南に位置する古墳であるが、現在は削幣が進み墳丘部の大部分を消失している。本古墳の東側には25基を数える古墳群や、縄文後期から弥生初期にかけての遺物包含層が見られる。なお北尾23号墳の所在地は北条町北尾字八幡山である。

歴史的環境 古くは、縄文時代（約1万年～2千年前）から生活が営まれていた根跡が鳥遺跡に残されており、出土した大量の土器、貝類、植物遺体、木製品などから、豊富な山海の幸に恵まれた豊かな縄文人の様子をしのぶことができる。また、弥生時代（約2千年～1500年前）に、祭祀に使用されていたと思われる袈裟櫛の銅鐸が米里の通称「蔵合屋」から発見されており、引き続き人々が当地で生活していたことが分かる。



- | | | |
|------------|------------|------------------|
| 1. 曲古墳群 | 2. 土下古墳群 | 3. やすみ塚(土下213号墳) |
| 4. 茶白山古墳群 | 5. 北尾古墳群 | 6. 島古墳群 |
| 7. 島蒨山遺跡 | 8. 北尾遺跡 | 9. 島遺跡 |
| 10. 曲226号墳 | 11. 船渡遺跡 | 12. 米里銅鐸出土地 |
| 13. 米里第1遺跡 | 14. 米里第2遺跡 | 15. 天神川河床遺跡 |
| 16. 字ノ塚遺跡 | 17. 殿屋敷遺跡 | 18. 馬場遺跡 |
| 19. 用露鼻遺跡 | 20. 長畑遺跡 | 21. 茶白山要害 |
| 22. 中浜遺跡 | 23. 下神1号墳 | 24. 曲宮ノ前遺跡 |

挿図2 北条町内遺跡分布図

特に北条町の考古学的特徴は、鳥取県下有数の古墳密集地であるということである。茶白山古墳群（約55基）、土下古墳群（約270基）、曲古墳群（約230基）、北尾古墳群（約25基）、島古墳群（約6基）など総数約600基という数は、淀江に次ぐものである。しかし、多数の古墳のうち調査されたものは数少なく、特に北尾古墳群については今回が初の調査である。

そこで、町内の数少ない古墳の調査例からその墓制を窺うと、土下山に位置する土下古墳群では、古墳時代前期（4世紀頃）の土下271号墳（方形周溝墓）、土下271号墳より新しい土下129号墳（方墳）、土下129号墳と同一尾根上にあり、ほぼ同時期と思われる土下285号墳、土下286号墳（共に円墳）では、主体部等埋葬施設に箱式石棺を中心として石蓋土拵墓や土器棺が用いられ、V字状の石枕が検出されるのが特色である。古墳時代後期（6世紀頃）の土下210号墳（方墳）の周溝からは、鹿の子文様の人物埴輪他2体の人物埴輪や多数の形象埴輪が検出され、すぐ南東にある国の重要美術品の鹿埴輪が出土した土下213号墳（やすみ塚、前方後円墳）を含めて、伯耆の古墳文化の豊かさを象徴している。蜘蛛ヶ家西端の曲山に点在する曲古墳群では、土下271号墳よりは新しいと思われるが曲148号墳、曲149号墳、曲151号墳（すべて方墳）が前期前葉～後葉のものとなされ、土下と同じく石枕を設けた箱式石棺が主体部等に用いられている。山の尾根の先端に作られた曲55号墳、曲234号墳、曲235号墳（すべて円墳）は、古墳時代中期（5世紀頃）後半のもので、主体部は削平され、消失してしまっているが、周溝から供献土器（甕、高杯など）や石枕を持った石蓋土拵墓が検出された。後期の横穴式石室が露出していた曲226号墳（隋円形墳）が、町内唯一の石室の調査例である。

また、山の緩斜面や山あいの平地から住居跡が検出されており（殿屋敷遺跡、曲岡遺跡、曲小山ヶ谷遺跡、曲宮ノ前遺跡）、古墳時代当時の人々は山間部で生活していたことが分かる。

町内の多くの古墳、遺跡等がすでに破壊されてしまっているが、これから調査例が増え、更に歴史の解明がすすむことを願う。

第3章 調査の概要

第1節 北尾23号墳について

(1) 墳 丘

墳丘のある丘自体が、西側が道路、北側が駐車場設置のため削られてしまい、墳頂も削平をうけている。よって墳丘は原形をとどめておらず、規模・墳形ともに不明である。

(2) 周 溝

墳丘と思われるものの南側に一部が残っていた。確認できるのは、幅約4.5m、深さ約20~30cm。断面は浅いU字状を呈しており、埋土は黒褐色土と暗茶褐色土である。周溝内からは、箱式石棺が3基検出された。

(3) 盛 土

第4層に黒色の旧表土が厚さ約20cm残っており、その上第2・3層、約40~70cmの幅が盛土と思われる。

(4) 第1号箱式石棺

調査区のほぼ中央、残っている周溝の中の墳丘寄りにある。検出された当所、石棺の東側半分を覆っていたと思われる2枚の蓋石が両側に落ちて開かれた状態で発見されたことから、盗掘にあっていたことが分かる。西側の長軸60cmの板石1枚はのったままで、計3枚の蓋石では覆われていたと思われる。

石棺の規模は、長軸125cm、短軸30cmの長方形で、小口石が側石にはさみこまれる形で東・西小口石は1枚ずつ、側石は大小1枚ずつの板石を一部重ねて並べた計6枚で構成されている。主軸はN-76°-Eをとる。周溝底部に掘り方の跡がほとんどないことから、周溝に埋土がたまってから掘りこんでつくられたと思われる。

石棺内には副葬品等一切なかったが、金メッキの施してある青銅製の破片(2mm前後)数個が埋土中から検出されている。

(5) 第2号箱式石棺

第1号箱式石棺の東約23m、周溝内の墳丘寄りに位置する。長軸67cmの板石で石棺全面をほぼ覆い、西側の足りない部分を5枚の小さな板石でうめている。

石棺の規模は、長軸80cm、短軸33cmを計り、東の小口石は側石にはさまれているが、西側の小口石は側石をはさむ形で、すべて一枚ずつの板石で計4枚で構成されている。主軸はN-49°-Eをとる。また石棺内東側底部に、10~15cmの小さな板石3枚をV字に組んだ石枕があり、西側足位のほうに厚さ約6cmの平石が1枚埋め立てである。

掘り方は、長軸148cm、短軸100cmの隅丸方形である。

出土遺物は、掘り上げた埋土中よりめのうの勾玉1つ、ガラスの小玉4つが検出されたが、時期の分かるものはなかった。

(6) 第3号箱式石棺

第1号箱式石棺の南東約3m、周溝内の墳丘外側に位置する。石棺は、約45cm四方の板石2枚の蓋石でまず覆れ、その上中央に長軸40cm、短軸25cmの板石がのっており、規模は長軸45cm、短軸20cmで小口石が側石にはさまれる形の1枚づつ計4枚の板石で構成されている。主軸はN-77°-Eをとる。石棺の上に木が生えており、取り除く際に掘り方が壊されてしまい、形状不明である。

副葬品など出土遺物は、全く検出されなかった。

第2節 出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	押版	法量 (cm)	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
1	須恵器 坏蓋	周溝内	6	3 口径 10.8	古墳時代 (6C後半)	口縁部は丸く、口縁部はやや外に開き、口縁部と体部を分ける沈線がある。天辺は平たく安定感がある。器高は高く、器厚も厚い。	内面全体と口縁部、体部の途中まで回転ヨコナデ。外面はナデの上から一部、申し分け程度のケズリが入り、天辺はヘラ切後ナデ。	良好	淡黄色	0.5~1mmの砂粒含む
2	須恵器 長壺蓋	周溝内 埋土中	6	3 残器高 12.5	不明	口縁部、底部とも欠損して不明だが、頸部は、上方へ広がってのび、片部は大きくふくらみ体部は底部に向かってしぼむ。体部と頸部の間に内面のつぎ目あり。	内外面横ナデ。	良好	青灰色	0.5~1mmの砂粒含む
3	勾玉	第2号 石棺内	6	3 長径2.4 厚さ0.7	不明	材質めのう			茶透明	
4	管玉	*	6	3 径0.7	不明	材質ガラス			青	
5	管玉	*	6	3 径0.55	不明	材質ガラス			青	
6	管玉	*	6	3 径0.4	不明	材質ガラス			薄緑	
7	管玉	*	6	3 径0.5	不明	材質ガラス			青	
8	石鏃		6	3 長さ2.4	不明	サヌカイト			濃灰	

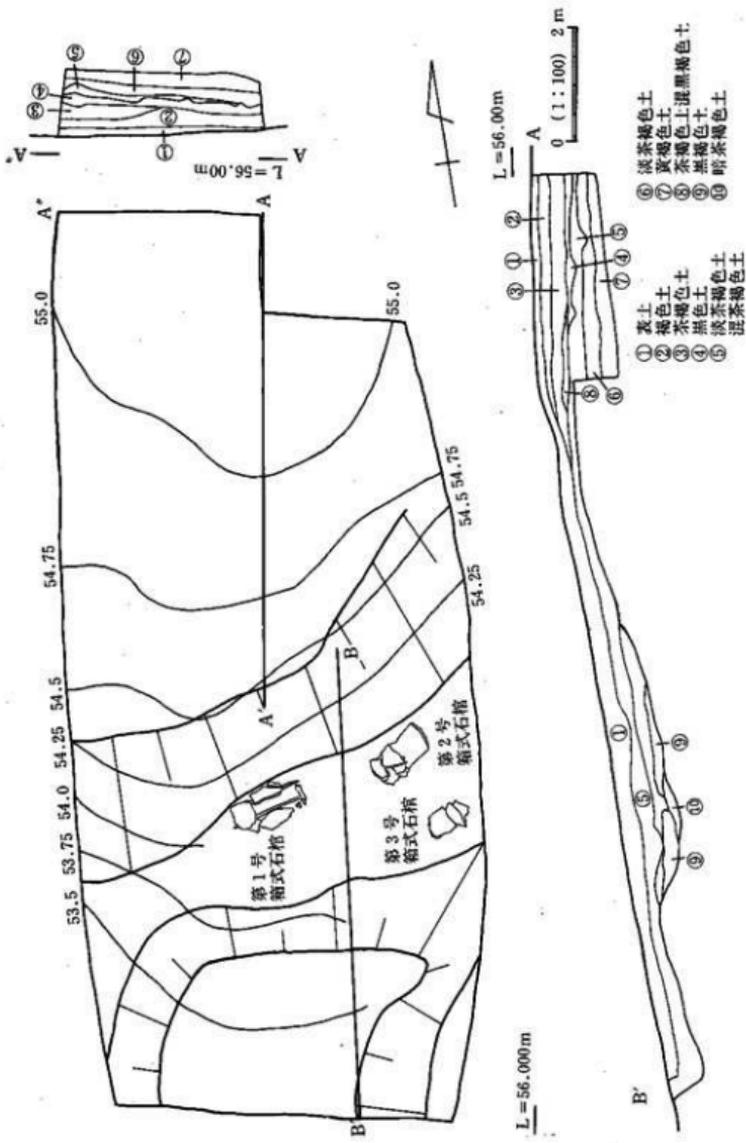


插图 3 北尾23号墳全体平面図・断面図及び階層平面図

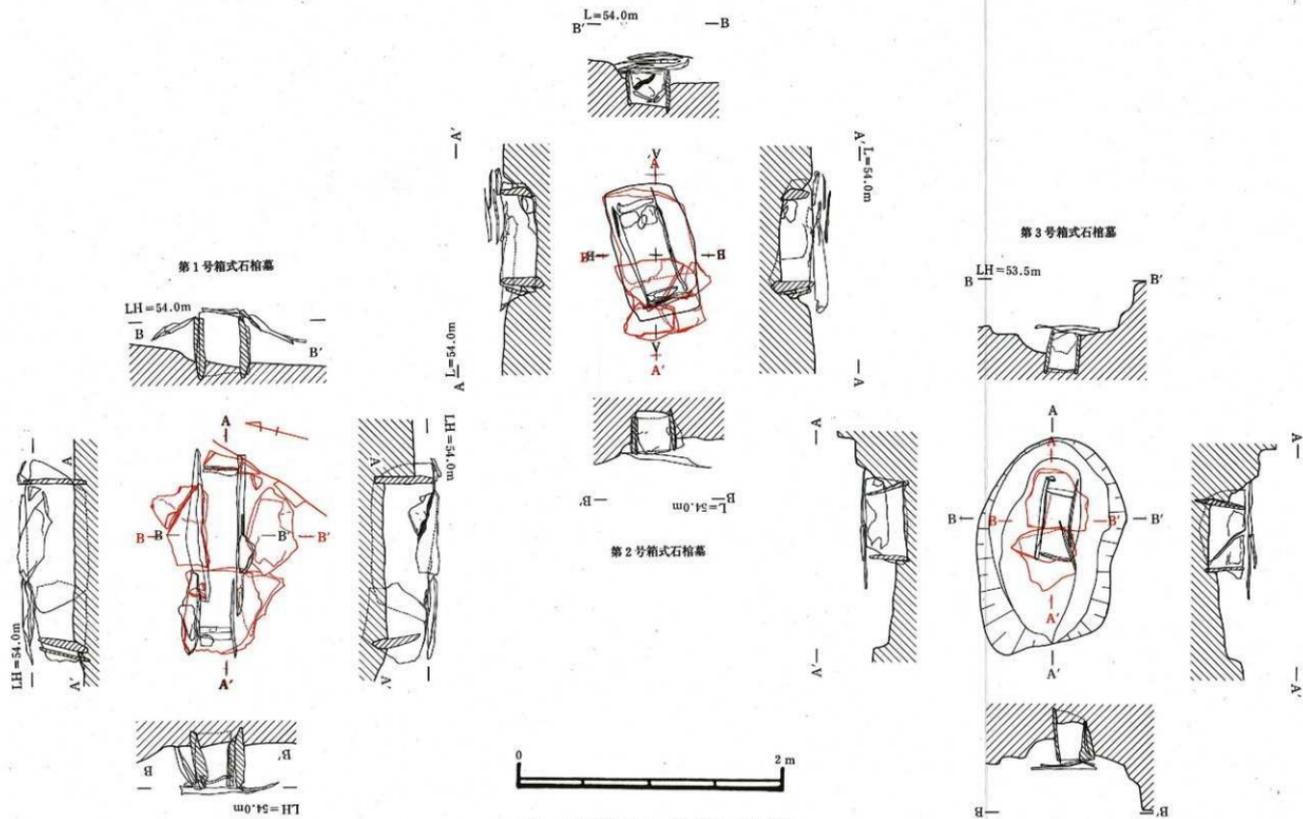
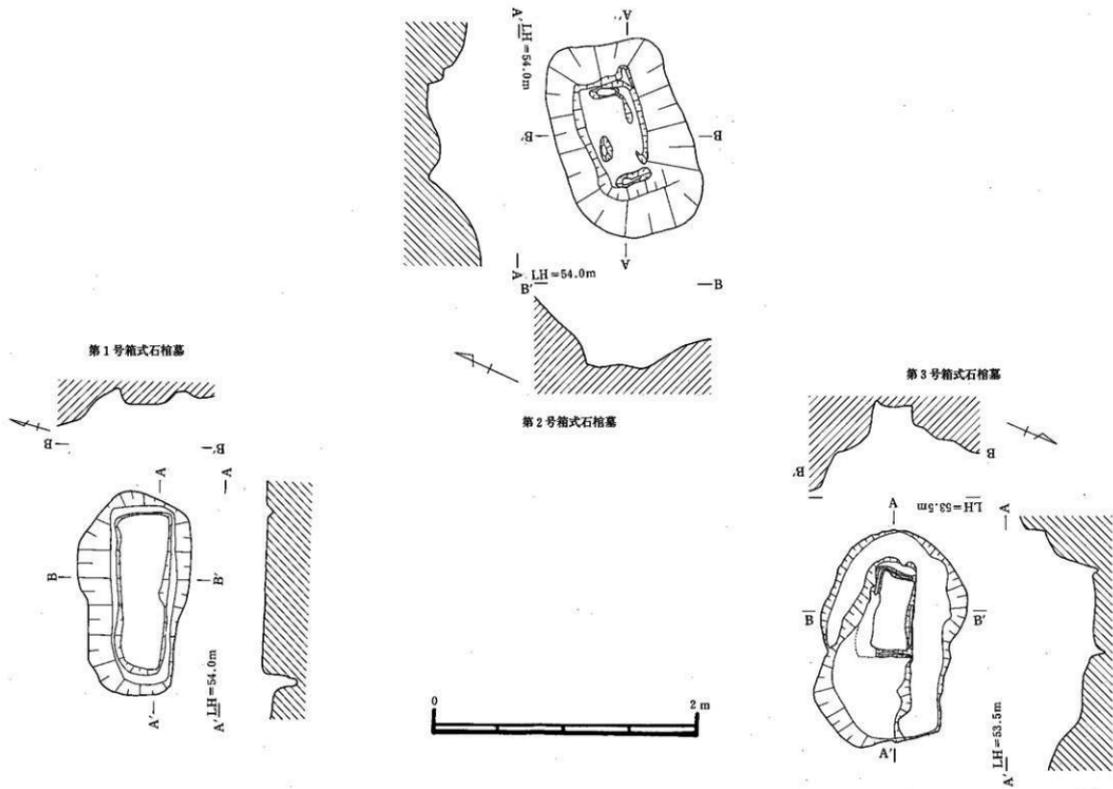


插图4 北尾23号墳第1号~第3号箱式石棺墓实测图



挿図5 北尾23号墳第1号~第3号箱式石棺墓掘り込み実測図

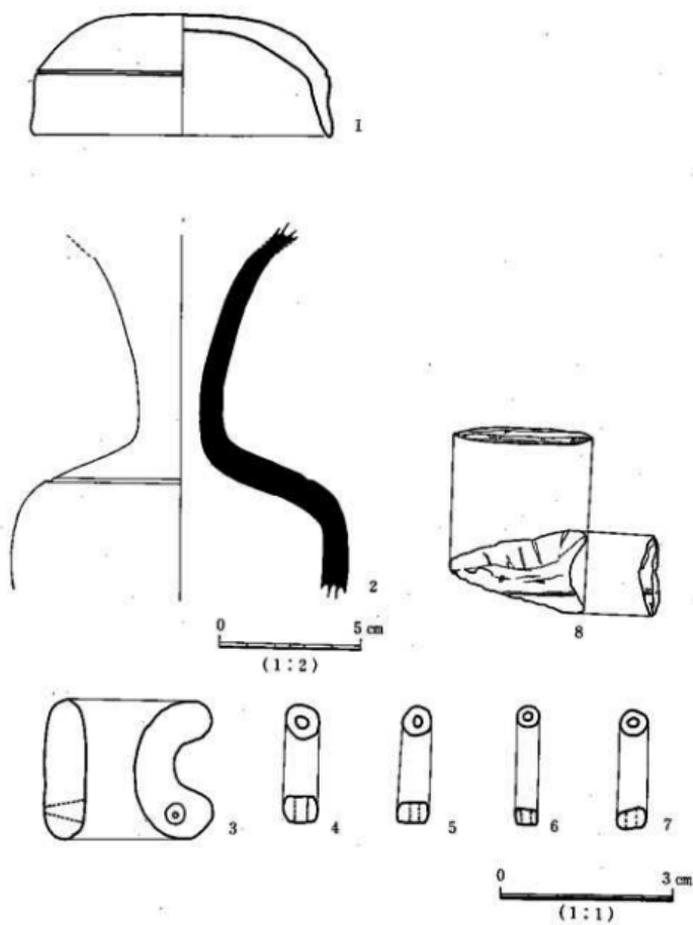


插图 6 北尾23号墳出土遺物

第4章 ま と め

今回調査を行った北尾23号墳は、町の南西丘陵部、蜘蛛ヶ家山の中腹標高50～60m、北尾八幡宮の南に位置する古墳であり、本古墳の東側には25基を数える北尾古墳群や、その下の平野部には縄文時代から弥生時代にかけての遺物包含層が見られる。本古墳の現況は、墳丘の南側周溝がかろうじて形を残していたのみで、他はすべて自然や人工的に削平を受けておりほとんど原形をとどめていなかった。

平成7年度の試掘調査で、2基の箱式石棺が確認された為の今回の調査では、新たに1基の箱式石棺が検出され、当古墳の南側周溝には計3基の周溝内埋葬がされていたことが分かった。これについて見てみると、3基すべてが盗掘を受けていると思われるが、比較的当時の現状を保っていた2号石棺からはこの地域の特徴であるV字の石枕が検出された。また2・3号石棺は周溝底部を掘り込んでつくられており、規模も小さいことから、古墳築造時頃に埋葬された幼児のものと考えられるが、1号石棺は周溝内埋土より掘り込まれており規模も他の2基より大きいため、それより遅く造られた可能性がある。

出土遺物としては、周溝底部より須恵器の坏蓋と周溝埋土中より同じく須恵器の長頸甕の一部が主に時代決定の材料となるものだが、特に坏蓋は田辺耀年に基づいてみると、TK-43にあたるものと推測し、6世紀後半から7世紀始めごろのものとした。時代を裏づける土器はこの他には検出されなかった。他に、2号石棺からめのう製の茶色の勾玉1個とガラス製の青い小玉4個が埋土中より出土しており、時期は違いが土下148号墳などで同質の勾玉や管玉の出土例がある。

今回の調査は北尾古墳群発掘調査の一例目であったが、その成果が充分なものであったとは言いがたい。しかし、これからの山野の開発が進むにつれて、北尾古墳群の調査も次第に行われ資料の蓄積がされていく中で、町内に多数ある他の古墳群との関わりやその位置付けがされていき、北条町の古墳文化の一端が見えてくることに期待したい。最後に、調査に協力していただいた作業員のみなさん、ご指導して下さった方々に心から感謝して結びとする。

報告書抄録

ふりがな	きたおほごうふんほくつちようきほうこくしよ							
書名	北尾23号墳発掘調査報告書							
副書名								
巻次	第1集							
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	23							
編著者名	清水直樹 中原由香里							
編集機関	北条町教育委員会							
所在地	〒689-21 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-3111							
発行年月日	西暦1997年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたおほごうふんほくつち 北尾23号墳	北条町北尾 字八幡山	31366		35°28' 48"	133°48' 38"	199608 ～199609	94.2㎡	県営鳥地区一般道路整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北尾23号墳	古墳	古墳	箱式石棺3基 周溝		土師器坏蓋 1つ 須恵器高坏 1つ 勾玉 1つ 管玉 4つ			

圖 版



調査区遠景 (北から)



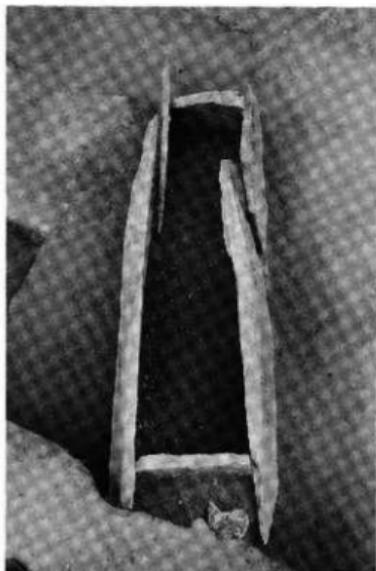
調査区実掘 (南から)



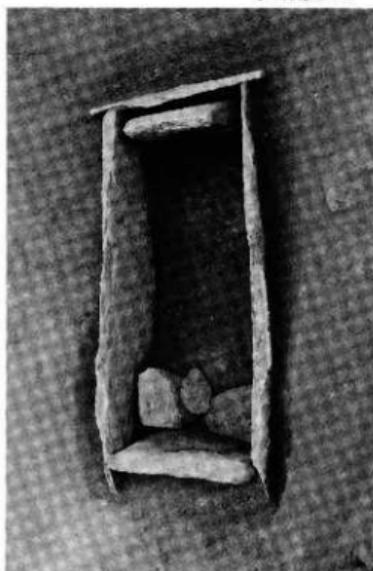
周溝内 (南より)



周溝部断面 (東より)



第1号箱式石棺墓 (東から)



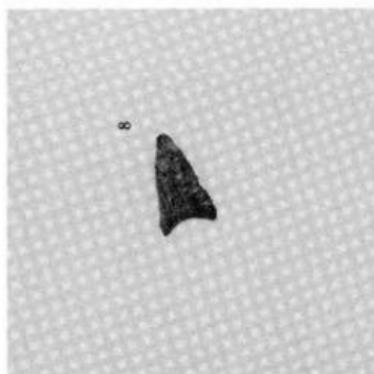
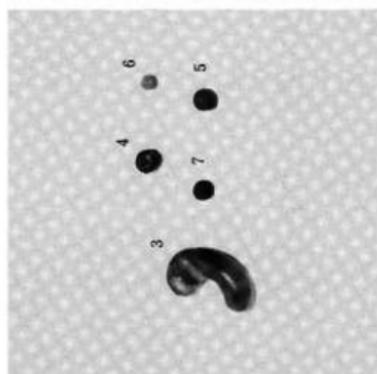
第2号箱式石棺墓 (西から)



第3号箱式石棺墓 (西から)



環蓋出土状況 (東東から)



北尾23号墳出土遺物

平成9年3月印刷

平成9年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書23

北尾23号墳発掘調査報告書

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 鳥取県東伯郡羽合町長瀬818-1

製本 勝美印刷㈱鳥取支店